

*** 四季の色

暑い夏、長い残暑がようやく去ったと思ったら、北国には、秋から冬へと季節の移ろいが急ぎ足でやってきている。今年は初雪の候に至って、ようやく紅葉が盛りを迎え、街は秋色に染まっている。

季節感は生活のリズムとも密接に関係しており、世界のなかでも稀有な、四季の変化が明瞭な日本においては、古来それを愛でる生活様式、文化が育てられてきた。

ところで、俳句には季語があるように、季節にはそれぞれが感じる色がありそうであるが、中国の「五行思想(ごぎょうしろう)」によれば、四季には組み合わせるべき色が定まっている。まずは想像いただきたい。

そもそも「五行思想」とは、古代中国に端を発する自然哲学の思想で、万物は「木・火・土・金・水」の5種類の元素からなるという説である。

木(木行)は、樹木の成長・発育する様子を表し、「春」の象徴。火(火行)は、火のような灼熱の性質を表し、「夏」の象徴。土(土行)は、万物を育成・保護する性質を表し、「季節の変わり目」の象徴。金(金行)は、金属のように冷徹・堅固・確実な性質を表し、収穫の季節「秋」の象徴。そして、水(水行)は、命の泉として胎内と霊性を兼ね備える性質を表し、「冬」の象徴・・・とされている。

また、あらゆる物に五行が配当されており、五臓(肝、心、脾、肺、腎)、五味(酸、苦、甘、辛、鹹(塩辛さ))、五穀(胡麻、麦、米、黍、大豆)、五色(青、紅、黄、白、玄(黒))などとして知られている。

四季の変化は五行の推移によって起こると考えられ、そこから、四季に対応する五行の色と四季を組合せて、「青春、朱夏、白秋、玄冬」という言葉が生まれた。すなわち四季の色は、春は青であり「青春」、再生・芽吹きを意味する。夏は赤で「朱夏」、陽気・酷暑を意味し、秋は白で「白秋」、静寂を意味する。そして、冬は黒で「玄冬」、胎動を意味し、春へと輪廻するのである。もともと、四季は冬をはじまりとするという考え方もあるようである。

さて、わが国にあつては台風期を過ぎたこの時期に、大西洋では超弩級のハリケーンが発生し、アメリカ東海岸を中心に大きな被害が発生、ニューヨークなどでは都市機能がマヒ状態にあることが伝えられている。

五行の推移も少しずつ変化を余儀なくされているようである。

季節に応じて発生するはずの自然現象にも変化が起こりつつあることには十分留意が必要であり、社会資本の着実な整備、維持管理をはじめとして、それぞれが準備を怠らないことが重要なのは言うまでもない。一方、「冬の時代」といわれる経済状態に対しては、現在は「玄冬」＝胎動の時期であり、今、行われている改革努力や研究・技術開発などは、「青春」＝経済再生に向けての将来投資・準備運動であることを心から期待したい。